夕刊 磐城新聞
一月三十日發行
定價 一部二錢 一ヶ月六十錢 [illegible]
廣告料 指定 [illegible]
發行所 磐城新聞社

美人詩抄(18)

赤井嶽男

芙蓉姿　李太白

美人は南國より出づ、灼々として芙蓉の姿あり。皓齒終に發かず、芳心窓しく自ら持す、由來紫宮の女は共に青蛾の眉を妬む、歸り去らん瀟湘の渚に、沈吟何ぞ悲しむに足らん

遙かに皎月の上に出づ、一笑につこり寔に城を傾くの色がある、而して彼等の恐る所は實に明月高く、草木かゝい色を帶ぶる宵である則ち彼等は平素その美貌に

美人多くは南國より出づ、その灼々たる容姿は恰も芙蓉花の朝露に似ひたるが如き風趣あり、その選ばれて紫宮に入るや、由來紫宮の女は妬心深く常に青蛾の眉を嫉んで之れを辱め之を苦しむ、故に南國の美人はその美貌のために他から妬排さるる處となり、嘗て皓齒を發く事なくして空しく芳心を持するあり、若し夫れ斯くの如くんば寧ろその郷里瀟湘の渚に歸り去るに若かず、何を苦んで沈吟して悲しむに足らんや

怨玉琴　同

燕趙には秀色あり。綺樓青雲の端、眉目皎月よりも艶なり、一笑城を傾くるの歡び。常に恐る碧草の晩。坐ろに、く秋風の寒きに、纖手玉琴を怨む、清晨起つて長歎す、焉んぞ得ん、君子に偶し共に双飛鸞に乘ることを

由來燕趙の地には美人が頗る多い、綺樓の高き處立つてそつちこつちを眺むるあり、その顏つきの美しい事誇ると雖も秋風一たび枯葉を排つて冷氣膚を侵す頃となれば日月徒らに水の如く流れて行つて我が容色の空しく衰ふるを歎き哀愁禁ずる事が出來ない、時に細く柔かな手で玉琴を弄し譏にその憂悶を遣らんとするも月光愈々冴へて玉露愈々濃やかなるに際りては胸與將に崩れんとして夕に歎じ明且復た起つて長歎するのである、啞彼等は能く君子に偶する事を得て彼の瀟子夫妻の如く鳳鸞に乘じて天上する事が出來るかどうか

ある人に

島田忠夫

あげつらひ言ふはたはやすし己がしごと省る時おもひあるべし

吾が性をとがむる人のしたり顏に言ふきけばいやしき理なりし

あらがひし心しづめて幾日あり斯くてしづまり行く心かや

はしたなき人をとがめね心より見はなししかば言やみにけり

ゆきつかむ先きの日にして思ひ見るべしものいふは憂く人を疎めり

○柴山晴美を悼む三首

みすずかる信濃にありて詩つくる頃の君が手紙を思ひ見にけり

くさぐさの詩をおくり來て吾もなにか云ひやりしかど今はわすれつ

白梅のつぼみかたきに雪ふりて凍みこぼれけむ君をかなしむ

—(今月今日)—

△威海衛攻撃(明治二八)△孝明天皇崩御、叡聖の御英資を以て國家多事の秋に臨ませられ遂に太世復古の基を開かせ給ひ王政維新の大業未だ就らざる中に崩御あらせ給ふ外船渡來に當りては中庭に御じて食を絶ち身を犠牲となし國難に代らんと祈らせ給ノし事ありきと云ふ、大御心いとも畏し△チャールス一世斷頭せらる(紀元一、六四九)△毒婦高橋お傳處刑(明治十二)

拈華微笑

◇平町の投じた一石縣下に大波紋を起す。鮮かな理論闘爭カネ◇湯本町公設質屋の店開き。持ち込んだり◇舊の師走に五百圓を遺した人あり。聞く者均しく『だあ！』◇ア流寒の突貫に酒の畑などは如何こりやいかんなんて逃げる勿れ◇記事の禁解けて睦月は行かんとす(卅日朝吟)

講談 赤鞘安兵衛

東京 桃川燕二演　村田月光畫

(一六〇)

途中痛治を加へながら忍び／＼江戸表へ乘込んだ來て見ると同志の面々は或は夜鳴蕎麥賣りとなり、或は酒屋となり、小間物屋となり、薪割りとなり、屑買り古金買などに化けて、本所松阪町吉良の屋敷の樣子を探る、併し吉良上野介の方では赤穗城退散の模樣を聞き、內匠頭城代家老大石內藏介は聞えたる智者、是れが發頭人となつて復讐の企てありとの事、萬一亂入夜討などがあつてはと用心の嚴しいこと夥しい呉服橋から本所松阪町へ屋敷替となつた時、上杉家から出た金ばかりでも四萬兩……御當節の四十萬圓にも匹敵する、夫等の大金で作り上げた屋敷四面に土塀を廻して丸い城の樣な普請、表門裏門にも嚴重な見張りが置いてある、卸々容易のことで屋敷内のことが探り出せるものでない、どう云ふ風にして吉良屋敷へ入らうか流石の安兵衛も兩腕を組んで考ひ込んだが、是と云ふ名案も浮ばない、或一日本所の石原を通りかゝると傍の九尺間口ばかりの家に『按摩導引針療治高田耕齋』といふ表札が出てゐた『はゝァ是れは高田軍兵衛だな軍兵衛は按摩になつてゐるかよし一ッ驚かしてやらう』

ガラ／＼表の格子を開いで飛込んだ『お頼み申す療治をして貰ふが出來るか！』……『あゝ宜しい上んなさい』と云ふのは軍兵衛の聲……『どうも肩が凝つてならん、肩を一ッやつてくれ』……『心得ましてござるお羽織をお脱ぎ下さるやう！』……『よし』軍兵衛は直に安兵衛の肩へつかまる、此の高田軍兵衛と云ふ人は實に不幸な人で矢張り、野內匠頭殿の御扶持を頂戴した武士だつたが、四十七人の人々と志が少しも變らず義は金鐵の如くであつた、元德川御直參の小旗本の次男、夫れが內匠頭殿に召抱へられて高が二百石、赤穗城で追腹殉死を內藏介に止められ、義黨の一人となつて連判状にも血判し、江戸へ下つては種々苦勞して上野介の樣子を探つてゐたが兄の不心得から我と我が血判を拔て貰ひ涙を吞んで兄の心に從ひ他家へ養子に這入つた、併し仇討の當夜婚禮の晩美事に腹十文字にカツ割いて壯烈な最後を遂げその申譯をしたといふ、實に天晴至極の人物、この軍兵衛が當時按摩となつて石原に潜み敵の樣子を探つて居たのでございます、安兵衛の方では軍兵衛と知つてゐるが、軍兵衛の方ではが安兵衛だとは思ひませぬ……『旦那は大層よいた身體がございますなァ』……『さうよ先づ日本には餘りない上等の身體だなア』……『でございませう、お見上げ申したところ顏付きは日本の人とは思はれませぬなァ』……『馬鹿にするな、面のことを云つたのではない、身體のことだ』……『イヤ是れは失禮で』……『時に按摩貴樣は只のむじなちやアないな』……『どう仕まつつてむじなや猫ではありませぬ、此通り人間で』……『人間は分つてゐるが、只の人間ではあるまいと云ふのよ』……『左樣でございます、少々風變り長崎一流でございましてな』……『とばけるな、貴樣は按摩の稼業なぞすべきものではない、元は二本差しであらうと云ふのだ』……『ヤツ手前が浪人者と見えますな』……『如何にも見える、餘人には見えぬか知らんが拙者には悉く見えるぞ、自慢ではないが人相を見ることは天下及ぶものもないだらう、殊に身の上判斷と來たら百發百中當らぬと云ふことは決してない』安兵衛出任せにほらを吹いだ此の人相見とか身の上判斷とかには差込みと云ふのがある、差込みとは相手に依つて言ふことは違ふが、何でも是れは成程と合點をさせることで。

ラヂオ

仙臺 JOHK
—卅一日(土曜)—

△六、〇〇 七、三〇B ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△九、〇五 經濟市況
△九、一〇 料理献立(烏賊卯月漬) 中村彪發表 日用品値段
△九、三〇 一〇、二〇A 經濟市況
△一〇、三〇 一一、〇〇A 家庭講座(簡易生活の實行者) 川津榮四
△一一、四〇A 經濟市況
△正午 時報
△後〇、〇五 〇、四〇A 洋合奏 一、インデアン舞曲 スケルトン作曲 近藤信一編曲 二、長唄 紀文大盡 近藤信一編曲 富士管絃樂團、指揮近藤信一
△〇、四〇A 全國ニュース 氣象通報 告知事項
△一、〇〇 一、五〇 二、三〇A 經濟市況
△三、四〇A 氣象通報(積雪)
△三、五〇 經濟市況
△四、〇〇A 全國ニュース
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇 六、三〇 (子供の時間) ものの研究したお話三つ 一、玩具のタービンの造り方 五年丸榮一 二、滑走機の作り方 五年市崎勳 三、やさしいエレベーターの作り方 五年柴田忠重 仙臺市木町通小學校兒童
△六、三〇 七、〇〇A 英語講座(中等科)『第一講の三』ノーマンブランチ
△七、〇〇A 全國ニュース(官ニュースを含む) ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項
△七、二五 七、五五A 浪花節の夕 一、慶安太平記 木村重松
△七、五五 八、三〇A 二、杉山檢校 浪花亭綾太郎
△八、三五B 三、尾張大八 廣澤駒藏
△八、三八B 四、勸進帳 宮川松安
△八、四〇A 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項

毛糸！
國産優等毛糸 一オンス 十一錢
國産中細毛糸 一オンス 十三錢
國産極細毛糸 一オンス 十四錢
國産霜糸降毛 一オンス 十五錢
編物器具類ナラドンナ品デモハシモトヤデ御間ニ合セ致シマス
平町田町 ハシモトヤ糸店

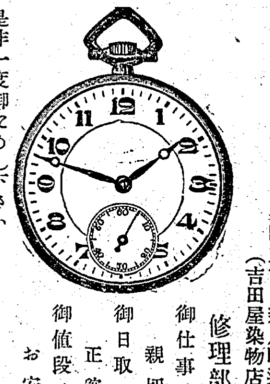
特賣!!!
清酒品評會 一等受領 たひら正宗
同 優等賞受領 花春
醤油醸造元 鹽屋 山崎合名會社 (電話一〇番)

吉田眼科病院

夜間診療
胃腸 内科 十二指腸虫病 専門 内科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 専門 外科部
松村胃腸性病科醫院 (平南町電話一〇七番)

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋 和洋銅物 ㊇ 釜屋商店
磐城國平町五丁目 電話九番 九九番 振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

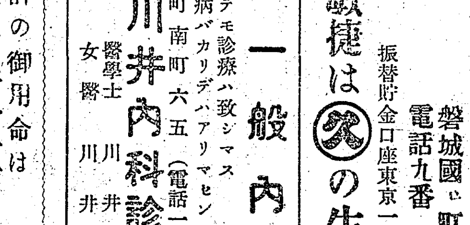
専門 一般内科
内科何デモ診療ハ致シマス 呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五 (電話一八一番)
川井内科診療所 醫學士 川井重之 女醫 川井安子


時計の御用命は
山崎時計専門店に
平町五丁目新川町通り (吉田屋染物店向)
修理部特長 御仕事は親切に 御日取は正確に 御値段はお安く
是非一度御ためし下さい

新マツダ瓦斯入電球三割値下
十五ワツト 二十五ワツト 三十錢
四十ワツト 三十九錢
六十ワツト
百ワツト 六十五錢
一個デモ御電話ガアレバ早速御屆ケイタシマス 是非御用命ヲ願マス
特約店 大谷時計病院 電球部 電話十九番

耳鼻咽喉科専門
平町田町七一 合津醫院 電話五五九
(入院應需)

第二回長期裁縫講習會
△科目(裁縫ヲ主トシ希望ニヨリ作法・料理法・編物生花等無料ニテ教授ス)
△會費(一ヶ月金壹圓)
△會場(平陽女學校)
△服裝(隨意)
△年齡(制限アリマセン)
△入會(何時デモ入會出來マス)
△特典(講習六ケ月終了者ニハ證書ヲ差上ゲマス)
石城郡平町 平陽女學校
尚本校内に寄宿の便もあり但し食費一日二十七錢で頗る底廉であります


平町田町 特約店 廣瀬支店 電話五四番

度量衡計量器 吸入用酸素 酸素吸入器
關内藥局 電話四〇番

高久病院 平町田町 (電話五一三番)
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄
内科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町が投じた一石で各方面に大渦を捲く

利害兩派の町村が對峙して　刮目さるゝ東部電附加税問題

東部電力株式會社から本縣下關係市町村が徴收すべき昭和四年度上半期營業收益税附課税は本縣分として割當てられた一萬九千七百八十九圓の本税を各市町村が按分してこれに各市町村が所定する賦課率（大體十割）を以つて課税する事になり舊臘十日郡山市外十一の關係町村が同市に集合して協議した結果その割當額の決定を見たが當時缺席した平町では右按分方に不服だとて各市町村に文書を發し協定の遣り直しを申出たので俄然問題となつた平町の主張は分配率は發電所所在地よりも營業所所在地が高くなければならぬと言ふにありこの論據に基くと平町に割當られた一千九十九圓は約五百圓を増し郡山市の七千六百五十圓は千圓増し小野新町の九百二十八圓は三百圓増となるがその他は各町村全部減額となるので町村では非常に驚き結局二月上旬再び關係市町村を集めて協議することになつたが郡山市は平町案によると増額するので中立の態度を取るべく尚既に賦課徴收して居る町村もあるので問題は大きくなる模様である

正論で進む平町の立派な修正理由

拔くべからざる町の確信

平町の修正理由は次の如く論據堂々たるもので町理事者には牢として拔くべからざる信念を有するもの丶如くである

—現行營業收益税法による課税客体は純益金にして舊營業税法の如く資本金を標準として課税したる外形標準課税法にあらざるを以て附加税歩合を定むる上に於て此趣旨により協定するは當然のことにして随つて從來の歩合と甚だしき増減を來すも法規改正に伴ふ必然の歸趣と謂はざるべからず抑も東部電力株式社會に對しては各關係市町村に於ける營業所營業狀態異なるを以て直接收入を生ずること無き營業所々在の市町村に對しても收入を間接的に認むるは相當ならんも歩合協定の上に於て收入を除外するは妥當ならず、若し其れ同會社が如何に資産、經費等が多きを爲すも純益皆無の場合は一錢たりとも課税し得べからざるは收益税法に示さるゝ處なり、故に收入歩合を加へ協定するを適當と認む而て市町村制施行令第四十條第三項に示される處の『直接收入を生ずることなき營業所あるときは他の營業所と收入を共通するものと認め前二項の規定により本税額の歩合を定むべし』とあるは蓋し收入を本位として而して直接收入なき營業所々在の市郡村にも收入を間接に認むるの趣旨に他ならず課税標準歩合を外形に依つてのみ定むるの趣旨ならざること論なし尚原案には發生電力量の歩合を計上しあるも電力發生の源を爲すものは資産經費なり故に此の歩合を掲げたるは重複なり又金額歩合と一の力の量の歩合とを對照するは税額を定むる上に於て公平ならざるべし故に發生電力量の歩合を敢て必要とするものとせば消費電力歩合をも計上せざるべからざるにより發生電力量歩合を削除するを適當と認む更に又原案關係市町村中收益税附加税を賦課せざる所あり賦課すると否とは其町村の任意に屬するを以て其の村の分を他市町村が割賦徴收するは妥當を欠くものと認めらるゝに依り本案を訂正したし云々

縣下共産黨事件　さのふ豫審終結

昨年七月以來福島市を中心とする共産黨組織の計畫發覺し爾來福島檢事局では記事の掲載を禁止し極力事件の究明につとめてゐたところ、六ケ月を經て昨二十九日に至り豫審終決、治安維持法違反として海野幸隆(三二)後藤墨衛(三六)江川新治(二四)佐藤一朗(二七)四名を有罪と決し（一名はすでに判決確定）同時に事件の一部は報道の自由を得た

石城の分　全部釋放

時の檢擧狀況

礦業地帶を中心とする平地方の八、一九尖鋭分子の一齊檢擧は同日早曉福岡檢事正總指揮となり先づ平檢事局武田檢事は平署の特高主任豬狩警部補以下十數名の警官隊を指揮し平町十五丁目より更に立町方面を襲ひ更に三笠檢事の一隊は同町搔槌小路へ若林警部補の一行は好間村に出動この他大町方面の分を併せ全部一時檢束又は留置直に取調べを開始したが比較的實際運動から遠ざかつてゐた一組はすると二十七日までに釋放され、首謀者と見られる三名だけを拘留緊張裡に總檢擧を終つ、が之れも同月三十一日九月三十日、十月八日それ〳〵釋放されるに至つた

平町のカフエーで逃走のプランを　四倉邊にも居た

—當時の海野幸隆

當時嚴重なる警戒網を巧にくゞり警察署を尻目に福島を脱出した海野幸隆は常磐炭田を中心として組織された常磐勞働者組合の同志をたづねて寄寓すべく平町に潜入し昭和五年八月二十八日同志の一人と共に早大生林武夫と稱し四倉町海岸山の手の某實業家の高壯なる別荘を借りうけ、この隠れ家を常磐の書記局として常磐の巨頭黨員の指導下に活躍してゐたが國勢調査の豫備調査が施行された際、官憲のために怪しい家としてにらまれるに至り狀勢まつたく切迫するや逸早くも感知し九月二十八日縣下一體を襲ふた大暴風雨の夜、篠つく雨をたかじて巧に同別荘を脱出し平町の某カフエーで休息逃走のプランをたて約一週間山野に起臥し逃走の當時携帶して居たパン並にビスケットに一縷の露命をたくし空腹に倒れ且つ疲勞と病苦になやまされながら十月一日の國勢調査は阿武隈山脈の山林中に暮らし、十月五日漸やく郡山市にたどりついたが發覺を恐れて郡山市小原田山林內で一夜をあかし郡山驛より乘車し福島に潜入したが嚴重なる警戒網を察知して福島市外信夫山山林並に同公園で二三日を野宿し福島高商生齋藤直也と詐稱して信夫郡清水村村長瓶子長六氏所有の貸家を借りうけ、この隠れ家を福島の書記局となし同志を糾合し實行に必要なる組織に關する調査行動、綱領並に新運動方針の作製終り組織の實踐に移り八、一九で粉碎された農民組合、勞働組合の再建組織に一大飛躍をなし急速的に各組合の基礎を確立せんとした際、俄然發覺し十月二十三日逮捕されたものである

重要書類と共に現金五百五十圓を遺す

旅行中の某社員が昨日磐崎地内で

平町紺屋町住吉屋本店止宿某社員東京南葛飾郡本間町堅石二二一渡邊勝己は昨二十九日午後一時頃磐崎村地内で現金五百五十圓其他重要書類入折鞄を遺失し早速平署に屆出たが未だ發見屆出がないと

入山出初式

入山炭礦消防組では明三十一日午後三時より同坑入山グラウンドに於いて出初式を擧行

湯本の公益質庫　堂々の陣容成る

來月十一日を期し愈々盛大に店開き

三萬圓の資金を擁して愈々來月十一日から店開きをする湯本町の公益質庫は同町字三函町會議員鯨岡賢司氏方の一部を事務所とする事に決定したが同所は表町より裏町に貫通する私有地の路次を有しこの種の營業場として出入頗る便利な場所なるのみならずその正面入口として今回新に吾妻通りの中央より入口をつけ先年該營業に使用したる店舗倉庫等堂々たる陣容の下に開業の筈で目下内外の準備着々進行中である、因に同所の貸し出し最大限は一口二百圓で一口五十錢迄のものに對しては之れを年利子とし大に社會政策的活躍を期してゐる

石城地方の流行感冒　漸く猛勢を加ふ

再び先年の慘禍に逢はぬ様其筋から詳細な警戒を發す

最近流行性感冒患者甚だしく縣下を通じて一月以降の患者千二百餘名死者十八名を算し益々蔓延の兆あり平署管内にも多數患者を出し惡性患者平町三十六名、小名濱十七名、湯本三十六名其他管内四町十八ケ村もこれに準ずる模様で更らに輕症患者をも加ふる時は全國十人に一人の割合に上るべくこれが爲小學校兒童並に各官廳會社員等の欠勤するもの續出し空つ風の吹きすさぶ二月季に於いて益々猖獗を極めるやも測り難く何日往年の慘禍を再びするやも知れぬので今三十一日平署では管内各町村長並に小學校に左記の印刷物を配付し其他適當の方法を講じて徹底的豫防に努める事となつた

豫防心得

一、飛沫傳染の防止

（イ）飛沫傳染の危險あるを以て咳嗽噴嚏の際は『ハンカチ』等にて口鼻を覆ふこと

（ロ）外出時多人數集會の場所に立入る時及患者に接する時は『マスク』を使用すること

二、患者の隔離

（イ）患者は可成別室に隔離し健康者に交通を差控ふこと

（ロ）患者との交通は遠慮すること

三、患者に對する注意

（イ）患者の衣服寢具等は適々日光消毒を行ふか煮沸又は蒸氣消毒を嚴行すること

（ロ）患者の唾くさめ鼻汁にて汚染せる布片紙片等は燒却又は便池に投入のこと

四、集會集合の制限

（イ）流行時には可成集會の場所に立入らぬこと

（ロ）學校内及其附近に流行の兆ある時は適宜登校停止全部の閉鎖を爲すの途を講ずること

五、含嗽の勵行

（イ）患者は勿論健康者と雖も一日數回含嗽を勵行すること殊に歸宅後食事後食事前御就寢前行ふこと

（ロ）含嗽藥としては百倍食鹽水二——三%硼酸水又は微温湯を適當とす

六、豫防注意

（イ）流行の兆ある時は速に豫防注射を行ふこと

（ロ）健康者と雖も早朝深夜の外出は可成差控へ過勞を避け休養を充分にすること　以上

流感と痲疹　内郷附近に

欠席兒童激増で善後策に腐心

内郷村御厩附近では最近ハシカと流行感冒の爲欠席兒童多數に上り其他附近各方面でも益々蔓延するの形勢にあるので一部識者間には一時休校說が唱へらるゝ程で校當局並に關係筋でも善後策に腐心してゐると

投書歡迎　寄書

舊正前後の警戒

◇舊の正月もあと三週間足らずの後に迫つた、平町邊の商店などでは再た復た大賣り出しの混雜をふふ歟や萬引に全身を耳と目にせねばならぬ時が來るわけであるが此際敢て且那さんや店員の一考を煩したい

◇詐欺漢が如何に巧妙新奇の手段に出ようと、店員等が少くも常識的の現下の世情をわきまいてゐさいすれば、その眞僞の判斷位はつくわけだが、要するに主人公たるもの丶店員敎育上の責任問題ではあるまいか

◇殊に農村などから來た許りの小僧さんなどは、何よりも先にその敎育の必要があり、敎科書はもちろん新聞の三面記事を活用して、詐欺に詐欺手段を防ぐに止まらず、場合によつては一歩進んで、その裏をかく位の覺悟がありたい

◇單り商店と云はず最近大に都市の色彩を帶びて來た平町にはチョイ田舍には珍らしい新手の詐欺漢が出沒して舊城跡邊の勤め人の留守宅の主婦などがよく一ぱい食はされる、山の神の敎育も又必要となつて來た所以である、そこで詐欺撃退法のサンプル二三を御參考に

◇ある主婦は、内容のいかゞはしい木炭を押賣せんとした男を『主人が某炭店員を勤めてゐるから』と云ふ一虚構を以て體よく撃退し、またある主婦は、主人の親友とかたつて金錢を詐取せんとする男に襲はれたが『主人が隣に居りますから一寸』と席を離れた途端男も姿を消した

◇私の友人にYといふ男があるが、その細君は前同樣の詐欺漢に對し、主人の名の一寸讀みにくい點を利用し『この番地にYが二人をりますがどちらの？』と反問して、彼を當惑せしめたが、機智と茶氣に富む彼女は、更に（YHですか？…』と尋ねたので、彼は—『さう〳〵そのHさんで』と急に安心したもの丶細の次の言葉は意外、さすがの○詐欺子も結局人違ひの不調法をわびてネヅミの様に退却した

◇あとで彼女は『YH』なんて者は同番地はたろか知人のうちにもない、まるきりデタラメだといふにおいては實に痛快ではないか

◇要するにこれ等は詐欺撃退法の特殊な例を述べたので、何も詐欺漢を詐欺手段に依つて防衛せんまでも店を守る店員留守を守る主婦として新聞紙に現はれた詐欺手段くらいは防衛の意味で知つて置く必要がある（CGS生）

赤井嵐

◇○組合では藝者や女中、雇人の勤續表彰をするのは結構なことだその記念品には何が好からうと村中の相談がオツ始じまつたものだ◇どうだへ、メタルにして胸に下げるのは普通だから首にブラ下げる様にしては『アラそれじやカメ犬見たいぢやないの』でオジャン◇半襟に染め拔きにしちやどうだ、勤續滿何年何家何妓と紫地に白拔きにしたらパツとするだらう『序に玉代も染め拔いたら宣傳にならう…！』『刑務所では番號だつていふから、間違ふようなことはあるまいね』なんて半蟲が出る◇結局銀盃一個贈呈と云ふことに決したそうだ、銀價暴落の爲め安く出來るだらうなどの爲めではダンゼ、無いそうだ……！。○……○

酌婦に賣る　年を偽つて

惡桂庵檢擧さる

横濱市中區吉野町人事周旋業木村正治(三二)は一昨年五月中内郷村字町農逢田勝治

平町人事

△出生　仲町十七川前村川前五一五農齋藤三之助六女ヤス子　搔槌小路一吉田五平二男昭平

▲死亡　鍛冶町二二鐵道技士吉田邑之助五男行雄　立町五甚三郎四男鶴山美夫(三)

舊歳末謝恩大賣出し　二月一日より七日間

必ず御滿足遊ばす商品豐富……値に！柄に！柔

商品本年掉尾の大奉仕

御仕着向格安品も豊富に取揃申候

一九三一年春の超尖端を切る

優秀片側帶地陳列　最新柄優秀　本富士絹友仙　銘仙　モスリン友仙　陳列會

◎御婚禮花嫁式服特賣

松印　江戸褄白紋羽二重丸帶御仕立上　四十五圓

竹印　江戸褄白縮緬丸帶御仕立上　六十五圓

梅印　江戸褄白縮緬丸帶御仕立上　七十五圓

◎三井獨特の超特價

模様銘仙　三圓八十錢……裏地　四十八錢

縞本銘仙　三圓三十錢　白、時ネル一丈モノ　四十八錢

新柄着尺モス　二圓五十錢　新柄ネル一丈モノ　六十五錢

正紺織色　九十錢

正紺縞　六十錢

▼大好評の足袋

白キャラコ　九錢……黒朱子　二十錢

色絹天　十五錢　▼數に限り御座います

平町　三井呉服店　電話三八番◦七五一番

國産セイコー腕時計　抽籤附特賣！

クローム側腕時計八圓半ヨリ　金側全十七圓半ヨリ

特賣の景品

一等　16形プラチナ側時計　市價　百十圓

二等　16形十八金側時計　同　六十二圓

三等　○S製扇風機　同　二十六圓

四等　○S月光裏鈴目覺　同　五圓

五等　○S硝子蓋足付　同　二圓

特賣期間　六年五月卅一日迄

其の他貴金屬、時計新値下品澤山　修繕値下　勉強を生命と致します

鐵道省御用　金光堂時計店　平五　電話一九五

隣に貸し家あり

學生外套特賣

酷寒・强雨ニモ耐へ生地

型・仕立百パーセントの

黒ラシャ外套特價提供

中學用（極上）8圓50錢より

小學用（同）5圓50錢より

全部頭巾付

あかや洋服店　平二　電213

內臟外科　外科一般　花柳病科

入院隨意　自炊の便あり

平町田町赤心堂病院跡（電話四三六番）

安齋外科醫院